

令和元年5月16日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04362

研究課題名(和文)メキシコにおける子どもの福祉と教育に関する歴史研究

研究課題名(英文)Historical Study on the Welfare and Education of Children in Mexico

研究代表者

青木 利夫 (Aoki, Toshio)

広島大学・総合科学研究科・教授

研究者番号：40304365

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、19世紀後半から20世紀前半にかけてのメキシコ・シティにおける子どもの福祉と教育に関する歴史について、関係機関に保管されている一次資料をもちいて考察した。具体的には、孤児や育児放棄された子ども、貧困家庭の子ども、非行年少者などの保護、教育、矯正に関わる思想や制度を検討したうえで、こうした子どもたちを収容する教育・矯正施設において、子どもたちの自立のためさまざまな作業を通じた職業訓練がおこなわれていた歴史を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

欧米諸国や日本における子ども史については、近年、研究が数多くなされてきた。しかし、メキシコの子ども史研究については、メキシコ国内で近年多くの研究が出されているが、日本においては皆無に近い状態である。それゆえ、メキシコの関係機関に保存されている一次資料をもちいてメキシコの子ども史を考察した本研究は、日本における地域研究、子ども史研究の蓄積に貢献する。また、児童労働の搾取、虐待、貧困、人身売買など、世界において課題となっている子どもをめぐる諸問題の解決を模索するための視座を提供する。

研究成果の概要(英文)：This study considered the history of the welfare and education of the children in Mexico City from the second half of the 19th century to the first half of the 20th century, analyzing the primary materials kept in some archives of Mexico. Examining the thoughts and systems about the protection, education and correction of the orphans, abandoned children, children of the needy family and delinquents, it was found that the vocational training had been carried out in the correctional and educational facilities through various works.

研究分野：メキシコ教育社会史

キーワード：メキシコ 子ども史 福祉 矯正施設 保護 職業訓練

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本助成金の受給者は、本研究課題に取り組む以前は、20世紀のメキシコにおける農村教育の普及について、教師の回想録や住民の請願書などの一次史料にもとづき、教師や住民のおこなった教育活動に焦点をあてて検討してきた。具体的には、国家による教育制度や政策に現場の教師や住民がどのように対応し、その政策や制度にどのような影響を与えたのか、その際に教師はどのような役割を担っていたのかなど、学校教育をめぐる教師や住民の生きられた歴史を分析した。こうした研究によって、1821年の独立以後、近代国家の形成過程において重視されてきた公教育制度が19世紀末から20世紀前半にかけて整備されていくなかで、国家と共同体がそれぞれの価値や権利をめぐる「社会空間」として「学校」が機能し、教師が、両者のあいだに立つ仲介者としての役割を果たしてきたことを明らかにした。そして、一連の研究を通じて、共同体内部の住民のあいだ、あるいは家族のあいだにおいても、権利や価値をめぐる意見の相違や対立があり、共同体や家族が決して一枚岩ではないことがわかってきた。また、子どもたち自身が学校教育をどのようにとらえ、そこでどのように生きてきたのかという視点から教育構造および社会構造を問い直すことの重要性を認識するようになった。そこで、これまでの研究をさらに深化させるため、子どもと家族に焦点をあてて、子どもの福祉と教育の歴史を解明するという着想にいたった。

2. 研究の目的

メキシコにおける子どもの福祉と教育に関する歴史をテーマとする本研究は、近代化がはじまる19世紀末から20世紀前半にかけてメキシコにおいて注目されるようになる子どもの救済、保護、教育の歴史について、子どもと家族に焦点をあてて検討することを目的とする。具体的には、児童労働、子どもの貧困、孤児や育児放棄など、この時代に加速する近代化、工業化、都市化とともに顕著となってきた子どもをめぐる社会問題を中心に、関連の文献や資料の調査および収集をおこない、その分析をおこなう。とくに、児童心理学や育児学などの子どもに関連する諸科学の成立、法律や政策および関連施設などの制度の整備、子どもに関連する出版物などについて考察し、子どもに関する観念や実際の子どもに対する対応の変化を探る。さらに、子どもや家族に関する一次資料をもとに、子どもや家族の生活についても明らかにすることを旨とする。

本研究では、4年間の研究期間を設定し、以下の点から19世紀後半から20世紀前半におけるメキシコ・シティに住む子どもや家族を対象として考察をおこなう。

- (1) 日本におけるメキシコの子ども福祉と教育の歴史に関する研究蓄積がないことを踏まえ、当該テーマに関連する国外の研究動向を整理する。
- (2) 出産・育児、子殺し・捨て子、児童労働、犯罪、福祉、教育など、子ども・家族に関連する法律や政策などの制度史を整理する。
- (3) 子どもに関連する諸科学(心理学、育児学、優生学、医学、犯罪学など)のメキシコにおける成立過程を明らかにする。
- (4) 子どもをめぐる思想、イデオロギー、観念、イメージの形成および変容の過程を明らかにする。
- (5) 家庭外や貧困家庭に生きる子どもたちに対し、公的機関(病院、孤児院、学校など)および民間団体(キリスト教会、慈善団体など)からどのような支援があったのかを明らかにする。
- (6) 家庭内における親子関係、子育ての方法、子どもへの期待がどのようなものか、また、階層によってどのような違いがあるのかを明らかにする。
- (7) 子どもの人間関係、子どもがいる空間、子どもの遊びなどに注目して、家庭内において子どもたちがどのような生活を送ってきたのかを明らかにする。
- (8) 家庭外に生きる子どもたちが、なぜ家庭から離れたのか、そして、どのような生活を送っていたのか、どのように生活の糧を得ていたのかを明らかにする。

3. 研究の方法

日本においては、メキシコの子ども福祉と教育に関わる研究の蓄積はほとんどなく、資料は限られている。そのため、メキシコ国立図書館、政府機関の歴史文書館、そのほか大学の図書館などの関連機関において、以下のような文献および資料の調査・収集を毎年2回おこなう。

- (1) メキシコにおける子ども福祉と教育に関する先行研究。
- (2) 19世紀から20世紀における子どもと家族に関わる法律、制度、政策などについての資料・文献および統計資料。
- (3) 19世紀後半以降に成立してくる子どもに関わる諸科学に関する資料・文献。
- (4) 子どもを収容する施設(学校、孤児院、病院など)に関する資料・文献。
- (5) 子ども・家族に関する新聞および雑誌の記事。
- (6) メキシコで開催された子どもに関連する会議の記録。
- (7) 子ども向け読み物、育児書、医学書、女性向け雑誌など、当時出版された刊行物。
- (8) 教員による報告書など学校関連の文書。

- (9) 子ども時代を描いている自叙伝や回想録。
- (10) 遊び道具、子育てに関する用具など、日常物質文化に関わる資料・文献。

以上の観点から入手した文献や資料を研究の目的にそって、以下の視点から分析する。

- (1) 本研究課題に関する研究動向の整理。
- (2) 子どもの法律、制度、政策および子どもをめぐる諸科学の内容およびその変容。
- (3) 子どもに関わる諸施設の設置状況およびその機能。
- (4) 子どもに関わる会議の内容および子どもに対する認識の変容。
- (5) 学校および家庭内外での子どもの生活。

4. 研究成果

メキシコの子ども史研究という本研究課題に関しては、日本における研究蓄積がきわめて少ない現状を踏まえ、4年の研究期間を通じて毎年2回、メキシコ国立図書館およびメキシコ保健省歴史文書館、メキシコ大学院大学など高等教育機関の図書館を中心に、関係機関における文献・資料の調査を実施し、子どもの福祉の歴史に関連する文献、資料、情報を入手した。そして、入手した文献、資料、情報を分析した結果、以下のようなことが明らかとなった。

(1) 先行研究を精査し研究動向を整理したところ、メキシコにおける子ども史研究は、1990年代から徐々に増えはじめ、21世紀に入って急増したことがわかった。とりわけ、子どもをめぐる概念・言説・表象、子どもの労働や保護、障がいをもった子どもへの対応、児童文学などの研究が出されてきた。ただし、子どもの非行や浮浪などに関連する研究は少ない。また、多くの研究が、国民国家形成期である19世紀後半から20世紀前半の世紀転換期を対象としている。

(2) 19世紀後半以降、医学や優生学、心理学、教育学など、西欧から導入された「科学」を背景に、子どもにはおとなとは異なる特有の問題があり、将来を担う子どもに特別な配慮をすることがメキシコ社会の発展にとって重要であるという認識が広まった。しかし、政治家や専門家らは、「将来の市民」である子どものなかに、浮浪、非行、病気、障がいなどのさまざまな問題を抱えた子どもたちが少なからず存在していることに大いなる懸念を抱いた。「将来の市民」がなんらかの問題を抱えているということは、メキシコ社会の「退化」につながる重大な危機であると考えられるようになり、子どもの問題が国家にとって解決すべき優先課題のひとつとなった。

(3) 問題を抱える子どもたちは、社会の秩序を脅かし国家の発展を阻害する「危険要素」としてとらえられるようになった一方で、問題を引き起こす環境から子どもたちを「保護」し、社会に有用な人材へと「教育」あるいは「矯正」することが重要であると国家の支配層に認識されるようになった。それまでは、問題を抱える、あるいは恵まれない子どもたちを保護してきたのは、カトリック教会や民間の慈善団体が中心であったが、19世紀後半以降、そうした慈善事業としての子どもの保護は、国家が担うべき公共の福祉事業としておこなわれるべきであるとする考え方が出てきた。

(4) 19世紀以降、徐々に確立してきた子どもに対する公共福祉という考え方は、恵まれない子どもたちの保護といういわゆる人道的観点をもつ一方で、「危険要素」として認識された問題を抱える子どもたちを管理するという社会統制の側面をもっていた。

(5) 「将来の市民」としての子どもへの関心の高まりとともに、年少者の犯罪に関わる法律や年少者のための裁判所の設置などの司法制度が徐々に整備され、さらに、子どもの保護、教育、矯正のための事業を担うべき公共の施設として、救貧院、捨て子院、非行年少者のための矯正学校などの施設が政府主導で整備されるようになった。

(6) 孤児や育児放棄された子ども、非行年少者などが収容された施設においては、基礎教育に加えて職業訓練をおこなうためのさまざまな作業場が設置された。とりわけ、20世紀に入ると、新しい機材が導入されるなど訓練のための作業場の整備が進められ、子どもの自立に向けた活動がより充実してきた。

以上の研究成果は、下記の通り、論文ならびに口頭報告によって発表してきた。日本においては、本研究課題に関わる研究はきわめて少なく、とりわけメキシコ保健省歴史文書館などに保管されている一次資料をもとにした研究は管見の限り皆無である。したがって、これらの研究成果は、日本における地域研究、子ども史研究の蓄積にとって重要な貢献をなすだろう。ただし、当初、研究目的としていた子どもたちの生活実態については、十分な資料を入手することはできなかったため、より具体的な考察までにはいたらなかった。そこで、改めて科研費の助成金を受けて資料の調査を続行し、本研究課題のさらなる深化を目指すこととした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

青木 利夫、20世紀メキシコの地域社会の変革と「つながり」形成、教育目標・評価学会紀要、査読無、第28号、2018、pp.11-20

青木 利夫、19世紀後半のメキシコ・シティにおける子どもの矯正施設、欧米文化研究、査読有、第24号、2017、pp.59-73

青木 利夫、「公共空間」としてのメキシコの農村学校 国家と教師と共同体の関係史、＜教育と社会＞研究、査読無、2017、pp.31-40

青木 利夫、メキシコにおける子どもの保護にかんする歴史研究序説 19世紀後半のメキシコ・シティを中心に、査読有、欧米文化研究、第22号、2015、pp.117-131

〔学会発表〕(計4件)

青木 利夫、貧困に生きる子どもたちの保護と教育 19世紀から20世紀の世紀転換期のメキシコ・シティを中心に、「歴史のなかの人びと」研究会、2018

AOKI, Toshio, Los niños en la "sociedad escolarizada" del Japón contemporáneo, Seminario Internacional "Miradas cruzadas sobre la educación básica en Japón y en México", 2018

青木 利夫、20世紀メキシコの地域社会の変革と「つながり」形成、教育目標・評価学会、2017

青木 利夫、メキシコにおける子どもの保護と矯正 19世紀後半から20世紀前半のメキシコ・シティを中心に、日本ラテンアメリカ学会、2016

〔図書〕(計1件)

水羽 信男、大池 真知子、青木 利夫 他、有志舎、アジアから考える 日本人が「アジアの世紀」を生きるために、2017、272(41-61)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。